

# 当別金沢の森ネイチャーセンター「当別町」



## 田園住宅の住民たちと「裏山コモンズ」づくり

私たちが森林・山村多面的機能発揮対策交付金を利用した活動を始めて、今年で3年目です。残念ながら地元当別町からの財政的サポートはありませんが、なんとか続けてこられました。来年度もがんばろうかな、と思っています。

当別町は近年、本州や札幌などの都市圏から、「自然と一体化した暮らし」を求めて移住してくる家族が増え、山沿いに「田園住宅」が建ち並び始めています。私の家もその一角にあるのですが、同じ町内会の子どもたちが、あまり自然の中で遊んでいない。せっかく裏山があるのに、その森が荒れている。何とか整備して活用したい、というのが活動を始めるきっかけでした。

私たちの目標は、森づくりというより、ひとつは子どもたちの遊び場・育ちの場をつくること。もうひとつは、新住民たちはほとんど薪ストーブを利用しているので、裏山の資源を活用してエネルギーを循環させること。そんなふうにして人が集まる森にすることを目指して、この活動を「裏山コモンズ」と名付けました。

数年前、私は『ネイチャーセンター／あなたのまちの自然を守り楽しむために』（プレント・エヴァンズほか著）というアメリカの本を翻訳出版しました。人里離れた場所ではなく、居住地のすぐそばで住民が触れられる自然（ネイチャーセンター）を造ろう、という米国のムーブメントを紹介したものです。当別町はちょうどピッタリの場所だと思い、活動団体の名前も「当別金沢の森ネイチャーセンター」とつけました。

## ビタミン「N」を補給できる森に

私たちの活動はとてもコンパクトです。森の面積は0.36haくらい。まず、初年度と2年目はじっくり林内を観察して回りました。調査会社の方たちの協力で植生を調べてもらったところ、準絶滅危惧種が2種、確認されましたので、そうした種を中心にした森づくりを目指しています。

森の中に入るためのトレイルをつくったり、ササを刈ったりしていますが、メインは、近所の子どもたちに声をかけて、町内会全員にチラシを配って、裏山で半日一緒に遊んで帰る、そういうコミュニティづくりです。親子連れとか、おじいちゃん・おばあちゃんと

孫とか、いろんな組み合わせの人たちが毎週集まっています。

冬場には、チェーンソー講習会を兼ねて、込み入ったトドマツ林を間伐して、薪を生産しました。こうして手入れを進めると、森は子どもが遊びやすい状態に変わります。ちょうど先日から、「冬のぼうけん」と名付けた6回シリーズの子ども向け野外プログラムが始まったところです。

先ほど安全講習と言いましたが、チェーンソーなど機械操作の講習にとどまらず、子どもたちを安全に遊ばせる指導法を学ぶ研修会を開いて、私たちスタッフ自身もトレーニングをしています。

こうした活動の記録は、ニュースレターにまとめて発行しています。活動を進めるうち、近所に住むいくつもの家族が裏山に遊びにくるようになってきたのは、大きな成果だと思います。

森の近くに、当別町内で最初期に入植されたお年寄りも今も健在なのですが、この方にインタビューをして、当時の様子をまとめて、この地域で共有したいと考えています。ほかにも「森の図書館を造ろう」とか、地元の幼稚園と連携したプログラムとか、新しい計画を進めているところです。

「日常的に自然と触れあうことが大脳生理学的にもすごく重要だ」と言われています。最近では、必須栄養素になぞらえてビタミンN(=nature)と呼ぶ人もいます。活動面積を少しずつ増やすことも念頭に、そういう場所を作っていきたいと思っています。



報告者

山本 幹彦さん

